

地域資源を活かしたバイオ産業の振興について

バイオ戦略2020のポイント

全体目標：バイオファースト※の考えを定着させ、2030年に世界最先端のバイオエコノミー社会を実現

- 市場の拡大に向け、市場領域ごとに目標設定し、バックキャストにより取組策定。2030年時点で総額92兆円の市場規模を目指す
- 人材・投資を呼び込み、市場に製品・サービスを提供するためのバイオコミュニティを形成
- 研究開発・事業化に必要な市場獲得を目的としたデータ連携を促進

※まず、バイオでできることから考え、行動を起こすこと

(参考) バイオ戦略2019：4つの社会像、9つの市場領域を設定

バイオ戦略2020（基盤的施策）（R2.6）：感染症関連の研究開発、資源なく取り組むべき基盤的施策（データ連携、コミュニティ形成関連等）を決定

市場の拡大

・2030年時点で総額92兆円の市場規模を目指す



バイオコミュニティの形成

- ・グローバル・バイオコミュニティ：バーチャルな事業創出の拠点として、研究開発機関、企業等が連携して研究開発から事業化までを推進（東京圏、関西圏を育成中）
- ・地域バイオコミュニティ：地元の大学等と企業・農業者等との協業により、バイオ関連事業で世界市場に進出、地域経済を活性化



データ連携の促進

・市場創出を目的に、戦略的に連携。政府全体の共通ルールを前提とし、異分野を含む幅広く、柔軟なデータ連携を可能とする環境を整備

バイオものづくり支援
プラットフォーム

土壌関連
データ

スマート育種
プラットフォーム

食・マイクロバイ
オーム・健康情報
データ

ゲノム・データ

地域資源を活かしたバイオ産業の振興について

(株) エルローズ 環境配慮型ブランド「GREEN BASE」、酒かすフェイスパック



セーレン (株) 化粧品



日華化学 (株) 化粧品



女子の理系進学支援とグローバル人材育成について

科学技術・学術における男女共同参画の推進に係る現状

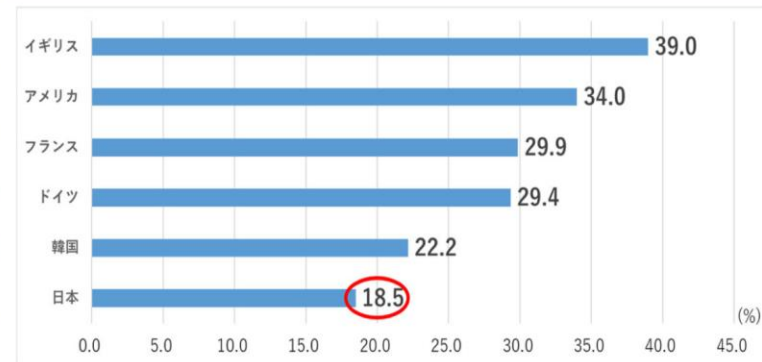
女性ノーベル賞受賞者数（自然科学分野）

	生理学・医学	物理学	化学	計
アメリカ	6	2	3	11
欧州	5	2	4	11
日本	0	0	0	0
その他	2	1	1	4
全体	13	5	8	26

※2024年までの受賞者を集計。

※その他の国は、イスラエル、オーストラリア、中国、カナダ。

諸外国の研究者に占める女性割合

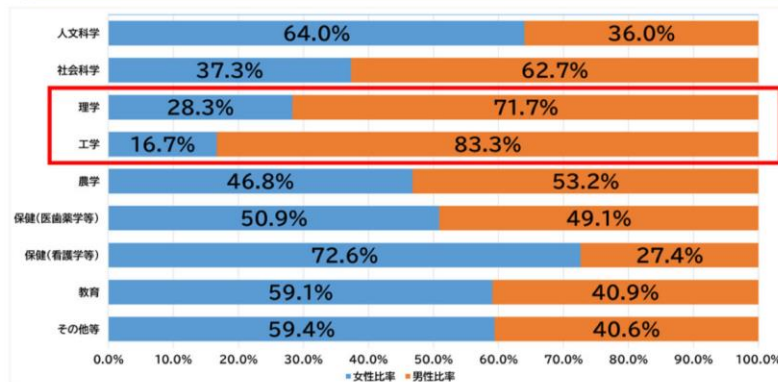


（出典）総務省「科学技術研究調査」（令和6年）

OECD “Main Science and Technology Indicators”

米国立科学財団（National Science Foundation：NSF）“Science and Engineering Indicators”

大学（学部）の学生に占める女性の割合



（出典）文部科学省「令和6年度学校基本統計」

OECDによる学習到達度調査(15歳時点)

	日本			OECD平均		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
科学的リテラシー平均得点	547点 1位	548点 1位	546点 1位	485点	485点	485点
数学的リテラシー平均得点	536点 1位	540点 1位	531点 1位	472点	477点	468点
読解力平均得点	516点 1位	508点 1位	524点 4位	476点	464点	488点

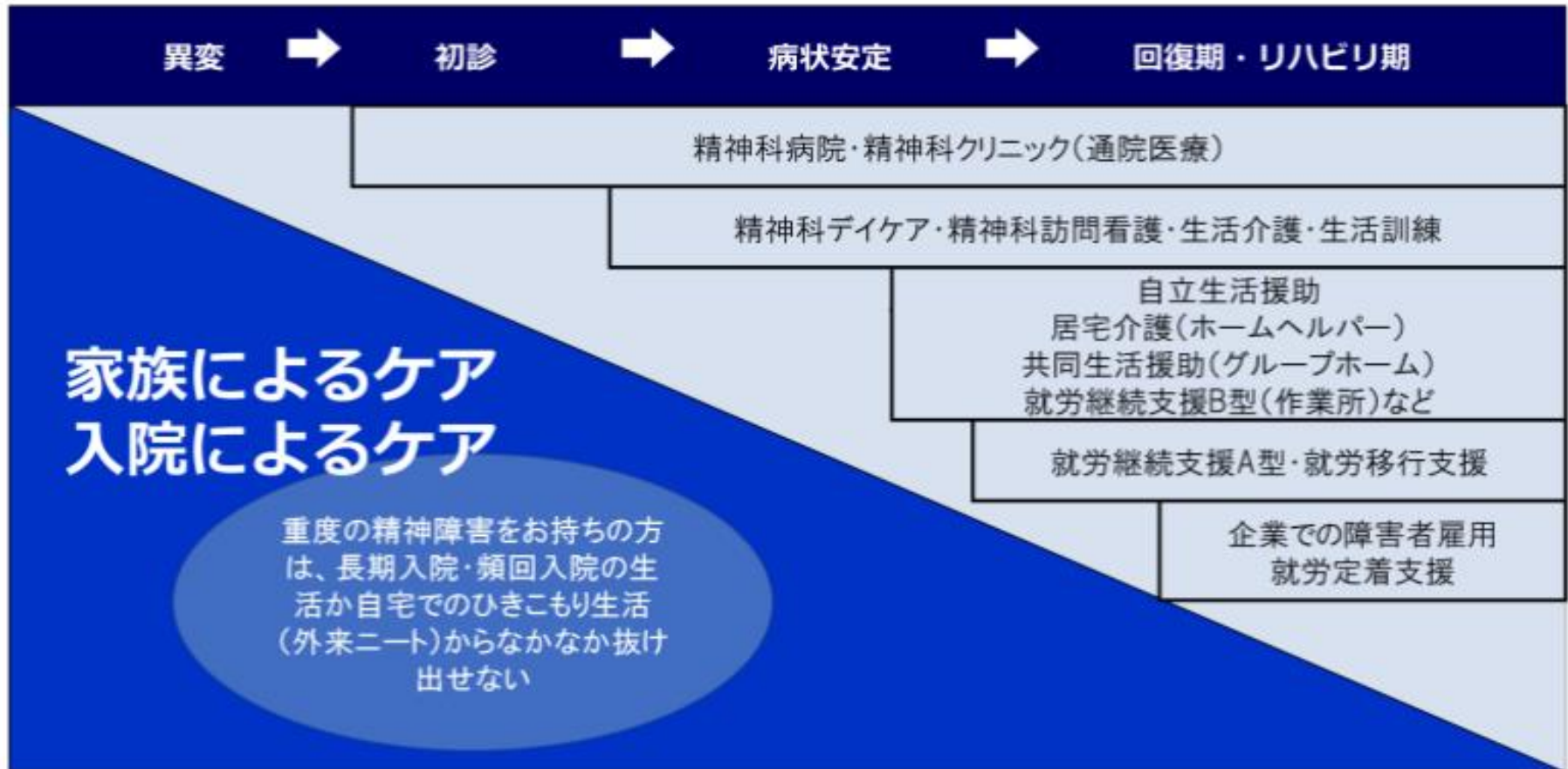
※OECD PISA（Programme for International Student Assessment）2022 より作成

※順位はOECD加盟38か国中。

※調査段階で15歳3か月以上16歳2か月以下の学校に通う生徒が対象（日本では高校1年生）。

「治す」から「暮らす」へ一心に寄り添い自分らしく暮らせる福井の実現

我が国の精神保健医療福祉システムの現状



京都ノートルダム女子大学 佐藤純先生 資料一部改変

「治す」から「暮らす」へ一心に寄り添い自分らしく暮らせる福井の実現

リカバリー概念に基づくサービス

	今までのモデル	リカバリーモデル
目標	健康	幸福
焦点	病気・障害	ストレングス（強み） 夢、希望、得意なこと、長所、経験 好きなこと、興味関心、環境など
サービス 内容	医療サービス	人生・生活全般を支援 意、医、食、職、住、仕、友、遊
考え方	リスクを避ける	ハイリスク・ハイサポート サポートを受けてリスクに挑戦していく

「治す」から「暮らす」へ一心に寄り添い自分らしく暮らせる福井の実現

ACTの取り組みが 全国で広がっています

～もっと全国にACTを広げよう！～

平成15年に日本初のACTチームが誕生してから、現在は、他国にあるように10数カ所のACTチームが誕生し、新たにACTチームの立ち上げを準備しているところ数カ所があります。しかし、日本でACTチームが必要な数は1,300カ所とも言われていますので、まだまだ少ないのが実情です。全国各地でACTのサービスを利用することができるように、ACTチームをさらに増やしていく必要があります。



コンボのACT-IPSセンター(22員参加)では、ACTを立ち上げようとしている事業者のサポートを行っています。ACTの立ち上げを検討している方は、ぜひお問い合わせください。

NPO法人地域精神保健福祉機構(コンボ)
ACT IPSセンター内 担当:久永・香苗
TEL:047-320-3873 / FAX:047-320-3873 / MAIL:aj@combokan.jp

08

ACTプログラムの 「質」を評価するには?

積極的に評価をすることで、サービスの質が向上します

利用者の方の希望する生活を送れるようサポートできるよう、ACTのプログラムは原則にそって実行することが求められます。そのために打つのが、「フィデリティ評価」です。フィデリティは直訳すると「忠実度」などの意味で、「フィデリティ評価」は、個々のACTチームのサービスの質が原則通りに保たれているかを、第三者に評価してもらい、今後のチームの成長の糧とするシステムです。

下図は、実際のフィデリティ評価の表です。このような評価を行うことで、ACTの原則が守られ、質の高いACTチームができていきます。点数が高いほど良い活動をしているという評価になり、一般的には各項目で4点以上の点数があることが期待されています。

ご家族に対する支援

利用者の方の身近な活動者としてご家族がいる場合には、直接関わりをもつ家族支援を提供します。その項目は7つあり、そのうちの1つ項目が評価されている場合は3点となります。

地域ベースのサービス

ACTのサービスは、利用者の方が地域に生活をする地域で行われることが大切です。利用者の生活のコミュニティが地域で支えられ、割合が90%以上であると、3点となります。

フォローアップを怠らないポリシー

訪問サービスと併せて訪問指導を積極的に行い、利用者の生活が安定にACTのサービスを継続することが大切です。1年以上継続されている利用者の割合が全体の90%以上、3点となります。

利用者の方の自己決定と自己決定の尊重

ACTでは、ケア計画作成などの支援過程に利用者の方の参加し、その方の自己決定を尊重することが大切です。この項目ではそれが行われているかを評価します。

積極的エンゲージメントの仕組み

積極的エンゲージメントの仕組みを構築し、利用者の生活が安定にACTのサービスを継続することが大切です。1年以上継続されている利用者の割合が全体の90%以上、3点となります。

ストレスに基づいた包括的サポート

ストレスマネジメントに基づき、利用者の方の悩みなどを相談した際にアセスメント(30分程度)の実施をサポートする項目で、全項目が評価されている場合は3点となります。

サービスの質

サービスの質を評価し、利用者の方の必要に応じて生活を送るための必要があります。利用者の生活が安定にACTのサービスを継続することが大切です。1年以上継続されている利用者の割合が全体の90%以上、3点となります。

ケースマネジメントのプロセス

ACTチームでは、ケースマネジメントのプロセス(精神保健の活動)が実施し、ACTチームのメンバーが責任を持って行うことが大切です。この項目ではそれが行われているかを評価します。

関わり方の創出

関わり方の創出は利用者の方の生活の安定に必要です。必要に応じて生活を送るための必要があります。利用者の生活が安定にACTのサービスを継続することが大切です。1年以上継続されている利用者の割合が全体の90%以上、3点となります。

治療チームにおけるコンシューマーの役割

この項目では、ACTチームの中でコンシューマー(精神保健の活動)が実施し、ACTチームのメンバーが責任を持って行うことが大切です。この項目ではそれが行われているかを評価します。

私的サポートシステムと

私的サポートシステムは、利用者の生活の安定に必要です。必要に応じて生活を送るための必要があります。利用者の生活が安定にACTのサービスを継続することが大切です。1年以上継続されている利用者の割合が全体の90%以上、3点となります。

フェデリティ評価

2023年の全国平均

2022年の全国平均

09

Assessing Community Treatment

